

■弊社リヴァのメディア掲載履歴

2011年7月14日 日本経済新聞夕刊9面「最前線ひと」の欄

うつ患者の復職へ 農作業を通し支援

うつ病やパニック障害などで休職した人への復職支援に取り組む。ただ元の職場への復帰を目指すのではなく「本当に合っている仕事か」も一緒に考える。場合によっては転職を勧めることもある。

同じ病気に悩む人と話すなどの「グループワーク」が中心で、通常のカリキュラムだと復帰まで3～6カ月の期間をかける。事業所は「オムソーリ」と呼び、スウェーデン語で「悲しみや幸せの分かち合い」という意味だ。

復職支援で起業したのは昨年。「企業が社内の休職者対応に苦慮していた。うつの人を社会的に支援できるインフラが少なかった」ことがきっかけだ。一対一でスタッフが患者に向き合うこともあるが、効果があるとみてカリキュラムに取り入れているのが農作業だ。

以前、知的障害者の就労支援で農業に関わる機会があった。耕作放棄地の問題も知り「放棄地対策とメンタルケアを結び付けられると思った」のが始まり。オムソーリを訪れる人の多くは、デスクワークに疲れ切った都市部の人たち。精神科医の診療に加え、農作業で環境を大きく変えることが「自分自身を見つめ直す機会になる」と考えた。

太陽や土に触れ、運動することは、うつ病になると不足するといわれる神経伝達物質セロトニンの増加につながる。それが自信の向上にも結び付くとみている。

西武池袋線入間市駅からバスで10分の距離にある埼玉県入間市の農家の畑で、草むしりや種まきなどを手伝い、イモ類やキャベツなどを育てる。将来は、入間市以外でも実施する考えだ。6月から始め、参加者からは「とても心のリフレッシュになった」などの声が寄せられているという。

社員が円滑に復職できるよう促す企業向けプログラムの開発も目指している。「社員の休職は企業にとって損失」。精神科医らと連携し、農作業の提案も含め、企業ごとに就業規則の変更や書類の作成などを支援していくサービスを7月から始めた。医療機関や行政の役割とみられがちだが、企業の労務管理への支援という観点から企業への営業を強めていくつもりだ。



■うつ病・心の病に関わる最新の社会動向

2011年7月7日 産経新聞 医療・健康面

精神疾患を追加して「5大疾患」

厚生労働省は6日、厚労相の諮問機関・社会保障審議会医療部会に対し、都道府県が作成する地域保健医療計画で「4大疾病」とされてきたがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病に精神疾患を追加して「5大疾患」とする方針を示した。同部会はこれを了承した。

2011年9月2日 朝日新聞 医療・健康面

心の問題理由の休職者がいる事業所、5年前から倍増

厚生労働省が1日まとめた「労働安全衛生基本調査」によると、メンタルヘルス(心の健康)の問題で連続1カ月以上休んだ労働者がいる事業所は5.9%で、5年前の前回調査の2.6%から大幅に増えた。厚労省は、この間、景気低迷で人員削減が進み、職場内のストレスが高まったためと見ている。

2011年10月24日 時事通信社

職場のメンタルヘルス対策義務化

事業者に対し医師などによる従業員のメンタルヘルス(心の健康)チェックを義務付ける労働安全衛生法の改正案要綱を労働政策審議会に諮問した。来年秋にも施行される見込みだ。